

MZ400

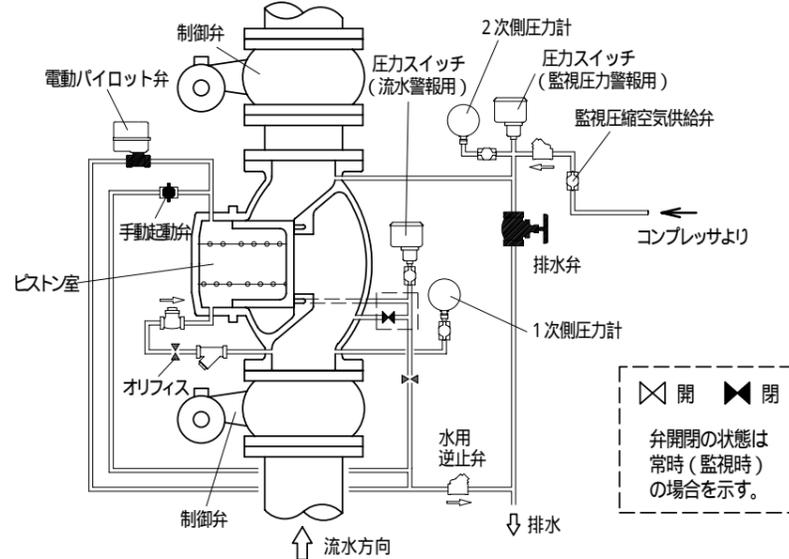
MZP509
GKM01161

仕 様

材質 : 合成樹脂板, t3, 白色
文字 : 角ゴシック, 黒色
図形 : 黒色
印刷 : シルク印刷

予作動式流水検知装置取扱要領

装置構成図



点検要領

1. 外観点検
 - 弁類の開閉位置が正常であるかどうかを確認する。
 - 圧力計の指示値が適正であることを確認する。(表-1参照)
 - 変形、損傷、腐食および漏水等の有無を確認する。
2. 機能試験
 - 減圧警報の確認
 - 2次側の制御弁を閉止した後、排水弁を開き監視圧縮空気を排気し、圧力スイッチの動作により減圧警報および減圧表示が正常になされることを確認する。
 - 減圧警報の確認後、排水弁を閉止し、正しく監視圧縮空気が供給されることを確認する。
 - 作動試験
 - 2次側の制御弁を閉止した後、感知器の動作またはブレイクアクション盤の操作と連動してブレイクアクションバルブが正常に動作し、放水表示および音響警報がなされることを確認する。
 - 作動試験後は所定の復旧方法によって正常に復旧する。
〔操作要領 2 消火(動作)後の取扱方法参照〕

操作要領

1. 常時、弁類は所定の状態にセットする。
 2. 消火(動作)後は次の操作を行う。
 - 消火を確認した後、1次側の制御弁を閉止し、放水を停止する。
 - ポンプ制御盤のポンプ停止スイッチを押して、ポンプを停止する。
 - 監視圧縮空気供給弁を閉止する。
 - 排水弁を開放して、流水検知装置2次側配管内の残水を排水する。
 - 火災により作動したスプリンクラーヘッドを新品と交換する。
 - 電動パイロット弁及び2次側の制御弁を閉止する。
 - 手動起動弁を開放する。
 - 1次側の制御弁を徐々に開放し、ピストン室内のエアを抜きながら、加圧水をゆっくり供給する。(この時、供給量が多いとブレイクアクションバルブが開放する恐れがあります)
- 注意：ピストン室内にエア溜まりがある場合、ポンプ起動時、瞬時ブレイクアクションバルブが開放する恐れがあるので、エア抜きは完全に行ってください。
- ピストン室内のエアが抜けた後、手動起動弁を完全に閉止し、1次側の圧力がポンプ締切圧力と同圧であること、ブレイクアクションバルブが閉止したことを確認する。(1次側の制御弁を閉止し、ブレイクアクションバルブ内の圧力が減圧しないことを圧力計で確認する)
- 注意：排水弁を閉止し、2~3分間放置した後、2次側圧力が無圧であることを確認して下さい。2次側に圧力が発生している場合はブレイクアクションバルブからの漏れが考えられます。
- 2次側の制御弁を開放する。
- 監視圧縮空気供給弁を開放し、2次側配管内に監視圧縮空気を供給する。
- 圧力計の指示値、付属する弁類の開閉状態が正常であることを確認し、設備を監視状態(正常状態)に戻す。

表-1

	圧力源	指示圧力値
1次側圧力	1次側圧力水	ポンプ締切圧力
2次側圧力	監視圧縮空気	0.1MPa

能美防災株式会社

〔連絡先〕

360
380

580

600

MZP509型取扱銘板

(MAC155-MV型流水検知装置用)

発行 技術部管理2課 縮尺

図番 MZ4053

能美防災株式会社